

ニッチで尖った機械づくりが生んだ低価格な創薬研究装置



プラン名
創薬研究開発費の低減を目指した
小型ペプチド自動合成装置の開発



ペプチド合成は創薬で注目の技術です。この装置は従来手作業で行われてきた合成の作業を自動化でき、試薬をセットすれば、ワンクリックで設定した容量(100~1500 μ L程度)を正確に計量して複数の反応管に投入し、合成します。洗浄も自動でき、時間短縮が図れます。競合メーカーはありませんが、弊社では仕組みを見直し、小型化と大幅コストダウンを実現させました。既存製品の価格では購入できない場合でも、弊社製品であれば購入できる機会が増えるはず。より多くの創薬研究の場での追い風になって欲しいです。

弊社では月に30件ほどの製薬をつくっており、簡単な部品から複雑な装置までさまざまなものがあります。私は誰かの役に立つことでビジネスは成り立つと思っています。ですから、「何々しかしません」というこだわりはなく、

「こういうものが欲しい」というご希望にフィットした開発をしていきたいです。

私は小さな頃から機械を組み立てたり分解するのが大好きでした。今でも新しい技術や機械に興味津々です。しかし、日本では色々な機械が画一的になりがちなのところがあります。もっとワクワクするような、ニッチで尖ったものを生み出すことができないか、いつも考えています。

他社にはないものを作りたい弊社の一風変わった取り組みとして、入社試験でのミニ四駆の組み立てがあります。説明書を見ながらの簡単な作業ですが、ものづくりのセンスや論理思考力などを見ることができると、重要な試験です。製品開発には「説明書」などありません。ものづくりセンスの溢れた皆と一緒に、「誰が使うの?」「何に使うの?」と驚かれるくらい、新しく面白くものをつくり続けていきたいと思っています。

京都市出身。大学卒業後、生産設備メーカーにおいて技術営業職として勤務し、設計や営業のノウハウを習得する。その後、個人事業主として個人向けの特注パーツの事業を行いつつ、ベンチャー企業の立ち上げなどにも参画。前職で理化学機器の開発を担当し、そこで出会ったフロー合成技術の可能性を感じ当社を起業した。近年ではフロー合成技術をベースとした製薬・化学分野の研究開発の自動化に貢献できる装置開発に力を入れている。



代表取締役
松本 一希

株式会社DFC

宇治市大久保町西ノ端1-25
宇治ベンチャー企業育成工場2号棟
☎ 0774-45-2503
<https://dfc-kyoto.co.jp>

👑ビジネスプランの詳細はこちら



<https://www.kyoto.jp/chief/contest/gp/1736.html>

受賞特典である活動助成金で「小型ペプチド自動合成装置」の試作機を製作されました。創薬研究では、開発期間の短縮及び研究開発費の抑制が課題。それらを解決する「小型ペプチド自動合成装置」の普及により、化学に新しい風が吹くことを楽しみにしています!

京商からの支援
(予定)